



# 第6回講義

恵みの手段と礼典

# 学習者の目的

- ウェスレーの恵みの手段の大系を理解する
- ウェスレーの洗礼理解を明確にする

# 教会とは

- 教会とは、信仰者の会衆であり、そこにおいて純粋な神の言葉が説かれ、礼典が正しく執行される。（この定義は重要）

# メソジストの使命

- (1) 野外説教
- (2) その場での自由な祈り
- (3) ソサエティーズの組織
- (4) 司教の按手 (藤本 330  
頁)

# ウェスレーの聖礼典理解

- キリストによって定められた聖礼典は、単なるキリスト者信仰のバッジや証拠ではない。
- それは恵みのしるし、すなわち神の我々に対する好意のしるし（外的なしるし）であり、それによって神は目に見えない形で我々の内側に働きかけ（内的な恵み）、信仰を起こすばかりか、それを強め、確かなものとする。
- 福音の時代に我らの主によって定められた聖礼典は二つあり、それは洗礼と聖餐である。

心のホーリネス  
敬虔の業  
個人的

信仰規則  
キリストに倣う  
スピリチュアルフォーメーション  
共同体的

生活におけるホーリネス  
慈愛の業

祈祷  
聖書を読むこと  
黙想  
断食  
日誌をつける  
告白  
節制

礼拝  
聖なる会話  
聖餐  
集会  
（バンド・クラス・ソサ  
エティ）  
説教

病める者の訪問  
給食活動  
貧しい人々の教育  
貧しい人々に与える  
シンプルライフ  
もてなし  
証しする  
刑務所への牧会  
社会正義  
天職

# 洗礼について

- 洗礼は靈的実質を受け取る手段、それを運ぶ管。そこに約束されている実質とは、“聖霊による再生”である。
- 洗礼がキリスト者としての発起的礼典であるのに対して、聖餐は生まれ変わった生命を保持し発展させるもの。

# 幼児洗礼について

- 幼児洗礼の場合は、自分の意志を働かせて恵みを拒否して、神の働きを否定することはできないので、洗礼と新生は合致する。（藤本 356頁）
- 
- ウェスレーは幼児洗礼と宗教教育による〈子どもの救いを〉真剣に考え、両方の手段をメソジズム運動の中で実践していた。しかしながら、幼児の時期に洗礼を受けたものが、神の道ではなく自我とサタンの道を、きよめの道ではなく罪の道を歩いている現実もあった。それが彼のアルメニアン神学の所以。（358頁）